

“歌う女優”デセイ、
クラシッククフェスティバル登場!

ナタリー・デセイ & フィリップ・カサール

デュオ・リサイタル
～女性たちの言葉～

モーツァルト

歌劇「フィガロの結婚」

“早くおいで、美しい喜びよ”〈スザンナのレチタティーヴォとアリア〉
“失くしてしまった、どうしよう”〈バルバリーナのカヴァティーナ〉

コンサート・アリア

“どうしてあなたを忘れよう～恐れることはないわ、いとしいひと”

歌劇「フィガロの結婚」

“愛の神よ、安らぎを与えたまえ”〈伯爵夫人のアリア〉
“美しい思い出よ、どこへ”〈伯爵夫人のアリア〉

歌劇「魔笛」より

“愛の喜びは露と消え”〈パミーナのアリア〉

ショーソーン:「終わりなき歌」

プーランク:「モンテカル口の女」(詩:ジャン・コクトー)

ドビュッシー:歌劇「ペレアスとメリザンド」“私の長い髪が”〈メリザンドのソロ〉

マスネ:エレジー (ピアノ・ソロ)

マスネ:歌劇「ル・シッド」“泣け、泣け、わが目”〈シメーヌのアリア〉

グノー:歌劇「ファウスト」“なんと美しいこの姿(宝石の歌)”〈マルグリートのアリア〉

2022年11月6日(日) (13:15開場)
14:00開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

S席¥13,000 A席¥10,000 B席¥8,000 C席¥7,000

D席¥6,000 学生(抽選)¥2,000(税込)

学生券
26歳以下
学生証提示 中京テレビクリエイションHPよりエントリー後抽選。詳しくは<https://cte.jp/gakusei/>をご覧ください。
【一般席と並びご購入されたい場合】公演1ヶ月前に残席がある場合に限り、並びご予約
いただけます。詳しくは中京テレビクリエイションまでお問い合わせください。

チケットお申し込み・お問い合わせ

中京テレビクリエイション

☎052-588-4477 (平日11:00~17:00)

<https://cte.jp/40cf/> 名屋クラシックフェスティバル

[プレイガイド]

チケットぴあ:<https://t.pia.jp/> (Pコード:222-058)

愛知芸術文化センター-PG:052-972-0430

ローソンチケット:<https://t-tike.com/> (Lコード:41223)

e+(イープラス):eplus.jp

名鉄ホールチケットセンター:052-561-7755

セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、

ファミリーマート店頭

主催: CHUKYO TV

[新型コロナウイルス感染症対策に関するご案内]

ご来場いただく皆様に、安全に安心してご鑑賞いただけるよう、感染症拡大防止対策を徹底し開催いたします。中京テレビクリエイションHP <https://cte.jp/> の注意事項をご確認の上、ご来場ください。

※出演者・曲目等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。※未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断りいたします。

その声と容姿の美しさで世界中のオペラ・ファンを魅了するナタリー・デセイ。 名手フィリップ・カサールのピアノとともに、フランスのエスプリを感じさせる大人なコンサート!

デセイ&カサール 2022年来日に寄せて

岸 純信(オペラ研究家)

今から18年前、「人の心が震える瞬間」を目の当たりにした。ナタリー・デセイ初来日の折、名バリトン、トーマス・ハンブソンからのコメントを、彼女にその通り伝えた時のことである。

「最も偉大なソプラノ。心からそう思う」

するとデセイは、顔を赤らめた。「ああ、ハンブソンさんはお優しいわ」。

彼女にとって舞台とは、常に「新しいものを提案する場」である。パリで共演したハンブソンも、デセイが毎回、人一倍のチャレンジ精神を発揮し、様々に可能性を探る姿勢に驚嘆。そこで彼は、やおら背筋を伸ばしてその感動を筆者に吐露し、その言葉を聞いたデセイも、素朴なひと言で感謝の心を表した。彼女が肩を震わせた一瞬は、今も目に焼きついている。

拘束時間が長いからと、オペラの現場は離れたデセイだが、それでも

「人物像を作り上げるチャンス」は手放したくないよう。今回の来日でも、モーツァルト《フィガロの結婚》のソプラノ3役それぞれに新しい命を吹き込み、ドビュッシー《ペレアスとメリザンド》のソロでは神秘性を体現。グノー《ファウスト》の〈宝石の歌〉といった「自分の若さに酔う娘心」から、プーランクの歌曲〈モンテカルロの女〉における「人生の最期に直面する老女のやるせなさ」まで、練達のピアニスト、フィリップ・カサールの支えのもと、どれも活き活きと表現することだろう。

なお、曲目の一つ、驚きのアリアが存在する。それがマスネ《ル・シッド》の〈泣け、泣け、わが目〉。太く豊かな声を持つ「メゾ寄りのソプラノ」のレパートリーに、歌唱史上最も繊細な声音が挑むとは。でも「それも私の新境地!」とデセイは微笑むのだろう。11月のステージが本当に待ち遠しい。



ナタリー・デセイ(ソプラノ)

Natalie Dessay, Soprano

Profile



フィリップ・カサール(ピアノ)

Philippe Cassard, Piano

キャリアを始めたころより、世界の最も重要な舞台で歌っている。

ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ロイヤル・オペラハウス、パリ・オペラ座などに定期的に出演。

フランス・オペラも得意とし、ラクメ、オランピア、ジュリエットにマノンなどを演じて来た。また、《夢遊病の女》、《ランメルモールのルチア》などのベル・カントのレパートリーではゲルギエフの指揮で録音も行っている。《椿姫》を東京、エクサンプロヴァンス音楽祭、ウィーン国立歌劇場、そしてメトロポリタン歌劇場で歌い、いずれも大成功を取めている。

指揮者のエマニュエル・アームとはヘンデルにも取り組み、パリ国立歌劇場での《ジュリオ・チェーザレ》にクレオパトラ役で出演。

リサイタルでデュオを組んでいるフィリップ・カサールとは2012年以来、カーネギー・ホール、ロンドンのバービカン・センター、サントリーホール、ウィーンの楽友協会など、約60回のコンサートを行っている。カサールとは「ドビュッシー歌曲集〜月の光」(エラート)など3つのCDをリリースした。

デセイは、ウィーン国立歌劇場より“宮廷歌手”の称号を授与されている。

近年、演劇にも出演しており、2018年7月にはアヴィニョン演劇祭に登場。また、モンパルナス劇場でシュテファン・ツヴァイク作品の「La Légende d'une vie(ある人生の伝説)」に出演した。

1985年パリでのクリスタ・ルートヴィヒとのジョイント・リサイタルを行って以来、フィリップ・カサールは協奏曲のソリスト、リサイタル演奏者、室内楽奏者として国際的な名声を確立している。88年にはダブリン国際ピアノ・コンクールで1位に輝いた。

これまでにロンドン・フィルハーモニック、バーミンガム市交響楽団、フランス国立管弦楽団等と協奏曲で共演。N.マリナー、C.デュトワ、M.ヤノフスキ等多数の指揮者と共演している。

2012年にはナタリー・デセイの専属ピアニストとなり、共にフランス、イギリス、日本、ロシア、オーストリアそしてアメリカなどで演奏している。さらにデュオとしてドビュッシーの歌曲集2作(エラート)と、シューベルトの歌曲集(ソニー・クラシカル)を録音した。

カサールは、2005年よりフランス・ミュージック・ラジオにて、ピアノ専門のラジオ番組のプレゼンターを務め、週1回、600回以上の放送を行っている。最近リリースしたCDには、オーケストラとの共演によるフォーレのバラードと幻想曲や、メンデルスゾーンの「ソロ・リサイタル(ソニー・クラシカル)の録音がある。